



人きらっとひかる

ひかる



たなか りな  
**田中 莉那さん**

岡学園トータルデザインアカデミー  
デザインビジネス科 イラストデザインコース 2年



<b>D</b>	組織名	岡学園トータルデザインアカデミー
<b>A</b>	創立	1946(昭和21)年
<b>T</b>	業務内容	「ファッション」「グラフィック、イラスト」「地域プロデュース」と、デザインを主軸に少人数制のアトリエ教育を実践。デザインに関わる幅広い分野のスペシャリストを養成している。また、今春リニューアルオープンする長野県立美術館において、長野県下の高校生、若手プロデザイナー、岡学園在校生の作品を展示、公開する「My SDGs展」を開催、SDGsの考え方を広く発信していく。
<b>A</b>	所在地	長野市岡田町96-5 TEL 026-226-5719
	URL	<a href="https://okagakuen.com/">https://okagakuen.com/</a>
		中野市出身。2019年4月、岡学園トータルデザインアカデミー デザインビジネス科 イラストデザインコース入学。長野商工会議所主催の「第12回芸術家発掘コンテスト」(2020年10月に実施)でグランプリを受賞。2021年1月~12月の1年間、本誌の表紙イラストを担当。

# 大好きな花を主題に こころの癒しになる作品を描く

今年最初にお届けした本誌の表紙を飾ったのは、「メジロと梅」。柔らかな色あい、伸びやかなタッチで描かれた水彩画からは、新春を迎えた慶びや生命の躍動感が伝わってきます。今年1年間、本誌の表紙を担当する田中莉那さんは、長野市内の専門学校でイラストやグラフィックを学ぶ学生です。「見る人が少しでも穏やかな気持ちになっていただけたら」という思いを込めて、季節の花々や動植物を題材に描いていきます。

## 第12回グランプリ受賞は、 イラストを学ぶ専門学校生

当会議所では、若手芸術家の育成、支援を通じて、長野の文化向上に寄与すると同時に、若手作家の表現により長野のブランドイメージを発信し、観光振興につなげていく取り組みとして、毎年「芸術家発掘コンテスト」を実施しています。

応募者の中からグランプリに選ばれた方には、賞金と、1年間(12回)本誌の表紙に作品を掲載できるという副賞が贈られます。12回目を迎えた昨年、見事グランプリに輝いたのは、岡学園トータルデザインアカデミー2年生の田中莉那さんです。応募する作品では、アングルと構図に悩みながら画面構成を考え、陰影の付け方も工夫されたとか。

「色校正の時に印刷された自分の作品を確認しましたが、想像以上に色上がりが良くてきれいでした。見た人の癒しになれるように、これからも力を抜かず描いていきたいと思います」。

## 三原色のテクニクで さまざまな色合いを表現

小さい頃から絵を描くことが好きで、小学5年生から高校生まで地元の水彩画教室に通っていたという田中さん。水彩画を描く際の基本的なテクニクとしてこだわっているのは、色の三原色である赤黄青をもとにしてさまざまな色を表現することです。



①1月と2月の表紙を飾るイラストの原画。3色の絵の具から、みずみずしい色合いの水彩画が生まれる

「たとえば、樹の葉っぱの色あいを出す時も、緑の絵の具を塗るのではなく、青色と黄色の2本の絵の具を混ぜて使います。その微妙なバランスによって、自然の風合いが出るんですよ」。

1月の表紙「メジロと梅」は、淡い梅の花に埋まるように描かれたメジロの愛らしい姿が印象的な作品です。ピンクの薄い花弁、

そして鳥の羽のふわふわとした柔らかさが感じられる、優しい作風となっています。2月の表紙は、「椿」。凍てつく寒さの中でも、凛とした生気を放つ何本もの椿があでやかに描かれています。椿の真っ赤な花びらも、つやつやとした緑の葉っぱも3本の絵の具を駆使して丁寧に表現されていることに、アーティストとしての田中さんの可能性がうかがえる一枚です。美しい自然の風物の中でも、特に花が大好きという田中さん。これからも、水彩画ならではの色使いや表現力で私たちの目を楽しませてくれることでしょう。

## 将来の夢は、ゲームの キャラクター・デザイナー

コロナ禍で、お友達とおしゃべりをしながらランチタイムを過ごすことはなかなかできなくなったそうですが、学校生活は充実していて楽しいとのこと。現在は、学生生活

の集大成となる制作展に向けて全力で取り組んでいます。また、ポートフォリオと呼ばれる作品集の制作も並行して続けていくそうです。

田中さんの将来の夢は、キャラクターデザイナー。憧れでもあり、目指している人は、卓越した色彩感覚と世界観で、ライトノベルの挿絵やソーシャルゲームイラストなどで幅広く活動しているイラストレーター「藤ちょこさん」です。小さい頃からソーシャルゲームに慣れ親しんできた田中さんにとって、キャラクターデザイナーは身近な存在。ゲームをしている時も、キャラクターが動き回る世界の構図や配色などに目がいらしてしまっそうです。

「ゲーム自体も楽しいんですが、キャラクターの表情や服装の色、デザインなど一つひとつが勉強になります」と、目を輝かせます。最後に、グランプリの賞金の使い道をお聞きすると、

「今は自分が欲しいものは、何もないんですよ。それより、いつもお世話になっている家族一人ひとりに何かサプライズプレゼントができればいいですね」と、明るく語っていただきました。



①1月7日(木)、当会議所議員新年祝賀会で表彰式が行われた。